

里神楽を知り、里神楽を通して気づいたこと

第九回公演のご成功、おめでとうございます。私は、夕公演に足を運ばせていただきました。

一、神前舞「奉幣之舞」

厳かな雰囲気の中、神前での礼に続いて始まった舞。会場全体の視線、そして意識がその舞に集まっており、一同の気持ちが舞に権化されているかのようでした。それが、単なる静けさとは違う、清く引き締まった空気につながっているのだと感じました。

二、新作面芝居「紅葉狩」（戸隠山の鬼女退治）

面芝居が貴重だということを、公演の後にプログラムを読んで気づきました。保存・継承するだけでなく、新たな展開を模索するという大きな意味をもつ作品を鑑賞できたことを嬉しく思います。また、舞台の進行とともにさまざまに展開される囃子、維茂が目覚ます直前にきっかけとして一吹き鳴らされた笛の音も興味深かったです。音と舞台のかかわりを感じながら、鑑賞することができました。

三、新作神楽「根国試練」

現代、そして未来への発信が感じられた、垣澤社中の挑戦でした。里神楽に初めて接する人や海外の方にもわかりやすく伝わるよう、趣向が凝らされていました。プログラムに「お伽神楽」の件がありましたが、こうした新たな発信の動きが、神楽界を元気にしているものと感じました。

四、「寿獅子・大黒舞・両面」

また一つ、違った世界と楽しむことができました。里神楽が、さまざまな芸能から影響を受けて発展した経緯を考えると、こうした芸域の拡大も里神楽のあるべき姿なのだなと感じました。里神楽の生き様を垣間見ることができた演目でした。

本公演を通して、里神楽との素敵な「出会い」をすることができました。公演以前には里神楽に触れたことがなく、未知のものでした。そのため、途中で飽きてしまうのではないかと、理解できないのではないかとその思いもありました。しかし、終演時に感じたのは「楽しくてわかりやすい！」という、まさに公演名通りの気持ちでした。限られた演目から、夕公演のテーマである「過去と未来」、そして里神楽の性格を知ることができました。

本公演では、里神楽に馴染みのない観客をも惹き付けるための工夫が随所に見られました。プログラム及び字幕に示された「主な演技の流れ」は、内容の理解を支え、わかりやすくするツールとなっていました。また、プログラムに掲載された「神楽公演外国語解説」には、目を見張るものがありました。その他、微細にわたり、実行委員会の想いが表れていました。

そして、特筆すべきは、垣澤社中の挑戦です。伝統的な型は、当時の人々の生活とともにあったものであると思います。そのため、現代を生きる人（とりわけ若い世代）との間に距離があるのは当然だと思います。そこで、その距離を縮めるために、現代を生きる人

の感覚に合ったものを取り入れながら展開させていく必要性を感じました。そして、そこを入口として起源に向かうことによって「昔」を認識し、伝統的な型ともつながりがもてるようになるのではないかと感じました。それを実現していたのが、垣澤社中です。垣澤社中の魅力的な点は、現代を生きる人とのつながりをもちやすいように改良しつつも、成立当時の姿や柱となる要素を欠いていないことです。先日、ブータンの伝統芸能であるツァンモに触れる機会がありました。そうした伝統芸能継承の鍵は、「人とともにある」という芸能の起源に原点をみることではないでしょうか。

“なぜ、里神楽にこれまで触れてこなかったのか”公演を通して抱いた疑問の一つです。単に機会がなかったということもあると思いますが、最大の要因は公演前の自分自身の気持ちそのものにあると気づきました。「食わず嫌い」ならぬ「触れず嫌い」の状態にありました。里神楽に限らず、かかわりをもってもないのに、かかわりをもつことを自分自身で遠ざけていることがあるのではないかと感じました。本公演を通して、距離を置いていたものと近づくことができたことを嬉しく思います。

また、もう一つ素敵な出会いがありました。プログラムの中で、あるページに目が留まりました。そこには「雄勝への旅 記憶される神楽奉納」という特集が。地元の石巻市内にも、現在に残る神楽があったことを知りませんでした。自分が生まれ育った地に伝わる芸能にも触れてみたいと思いました。身近にあったのに見えていなかったものに気づかせてくれた「縁」に感謝しています。

今回の経験を、次世代にも繋げていきたいです。現在、東京都内の私立高校で音楽科の非常勤講師をしています。授業で扱う曲の中には、生徒が退屈に感じてしまいがちな音楽もあります。先日、授業で歌舞伎を取り上げました。そのところ、生徒の振り返りの中に次のようなものがありました。「おばあちゃんが長唄をやっているの、少し長唄について聞いてみようと思いました。」これも身近にあった伝統音楽と少し近づいた例ではないかと思えます。生徒と音楽との「出会い」を大切に、「縁」に気づかせるような「出会い」を提供していきたいです。

素敵な「出会い」、そして「縁」をありがとうございました。

(立川市・T.S)